

国立大学法人東京海洋大学 職員採用説明会資料

令和2年7月23日

学長挨拶

MESSAGE FROM THE PRESIDENT

国立大学法人 東京海洋大学長
竹内 俊郎

Dr. Toshio Takeuchi
President
National University Corporation
Tokyo University
of Marine Science and Technology



東京海洋大学は、我が国が海洋立国として発展し、国際貢献の一翼を担っていくため、「海を知り、海を守り、海を利用する：Voices from the Ocean」をモットーに教育・研究を展開し、その使命を果たすべく努力しております。具体的には、研究者を含む高度専門職業人養成を核として、海洋に関する総合的教育研究を行い、海洋分野において国際的に活躍する産官学のリーダーを輩出するための卓越した教育の実現を目指しています。さらに、海洋に特化した大学であるという特色を活かし、環境、資源、エネルギーを中心に、海洋分野におけるグローバルな学術研究の強力な推進とその高度化に取り組んでいます。

現在、「ビジョン2027バージョン2」*1を基に、教育、研究、国際化、社会・地域連携、管理・運営の項目毎に、改革を実施しています。これは、2015年公表済みを昨年改訂したもので、既に実行済みや修正すべき事項、国連の持続可能な開発目標（SDGs）などの内容を加味しています。ホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

本学の教育・研究の取り組みとして、平成24年度に「スーパーグローバル大学等事業」において、新興アジア諸国との連携を図る一環として、英語によるコミュニケーションを重視し、TOEIC L&Rスコア600点を品川キャンパスの学部4年次の進級要件とするとともに、大学院博士前期課程における授業の英語化を進めました。平成28年度には「大学の世界展開力強化事業」として、OQEANOUS*2プログラムをスタートさせ、中間評価において、最も優れた“S評価”を得ております。これは、大学院レベルでの質の保証を伴った日中韓における単位互換制度の構築を目指すもので、今後はASEANや欧米の各大学との交流につなげることであります。さらに、昨年度は、「海洋産業AIプロフェッショナル育成卓越大学院プログラム」が採択されました。これは、本学が有する海洋、海事、水産の専門知識とフィールドに関する豊富な経験を元に、的確に人工知能を用い、その社会実装を主導するイノベータ・高度専門技術者や海洋政策の立案を行う人材を育成するプログラムです。「MAIDEC」*3を拠点として、連携機関とともに海洋AIコンソーシアムを結成し、産学官の連携で本プログラムを推進します。具体的には、AIを絡めて網羅的に教育・研究を行うもので、この4月から、大学院の5年一貫プログラムとしてスタートさせました。また、今年度は、「水圏生殖工学研究所」を設置します。

このほか、①学外の研究機関との連携大学院の実施、②本学練習船を用いた実習・調査・研究の展開、③水圏科学フィールド教育研究センターを活用した共同研究などを行っています。さらに、国際交流・社会貢献では、海洋関連産業界等との産学官金連携、公開講座や国の重要文化財「明治丸」を含めた「海の日」記念行事、国内外の諸地域（墨田区、気仙沼市、タイ国（SEAFDEC）、コロンビア及びセントルシア（JICA-大学連携ボランティア派遣事業）など）との連携活動を進めています。

このように本学は、SDGs目標14「海の豊かさを守ろう：海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する」を中心に、海洋（河川・湖沼を含む水圏）に係る最先端の「科学」と「技術」（Marine Science and Technology）を学び、海洋に特化した専門性を身に付け、グローバルな視点で実践的に活躍できる人材を養成しています。

*1 「ビジョン2027-海洋の未来を拓くために-」は第4期中期目標期間終了時（2027年度末）に向けて現学長が策定したもので、学長のリーダーシップにより学内の資源を集中させた大学改革・体制強化を推進するビジョン。（<https://www.kaiyodai.ac.jp/overview/president/vision2027.html> 参照）

*2 OQEANOUS（オケアヌス）：Oversea Quality-assured Education in Asian Nations for Ocean University Studentsの略。

*3 海洋AI開発評価センター（MAIDEC: Marine AI Development and Evaluation Center）

人類社会の持続的発展に資するため、海洋を巡る学問及び科学技術に係わる基礎的・応用的教育研究を行う。

To carry out basic and applied education and research activities related to studies and science and technologies concerning oceans, with an aim of contributing to the sustainable development of human society.

大学の人材養成と目標

Program and goals for the cultivation of human resources

我が国が海洋立国として発展し、国際貢献の一翼を担っていくためには、国内唯一の海洋系大学である東京海洋大学が、「海を知り、海を守り、海を利用する」ための教育研究の中心拠点となって、その使命を果たす必要がある。このような基本的観点に立ち、本学は、研究者を含む高度専門職業人養成を核として、海洋に関する総合的教育研究を行い、次の能力・素養を有する人材を養成する。

1. 海洋に対する科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方を提示し、実践する能力
2. 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力
3. 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力
4. 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力
5. 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養

Tokyo University of Marine Science and Technology, the only maritime university in Japan, must serve as a core educational and research institution for the motto: "Voices from the Ocean", and perform its missions in order to assist our country in developing as a maritime nation and an international contributor. Based on this platform, our university will conduct comprehensive education and research activities concerning the oceans, focusing on training for highly skilled business professionals, including researchers, to foster development of human resources with the following abilities and qualities:

1. To deepen scientific recognition of the oceans, present a strategy for desirable utilization of the natural environment, and put such utilization into practice.
2. To act based on the ability to think logically and to exercise appropriate judgment with a sense of responsibility to society.
3. To recognize and understand various issues regarding modern society from a broader perspective and the ability to exercise practical leadership in response to such issues.
4. To address and solve problems based on having a well-rounded character, a broad understanding of cultures, and deep specialized knowledge and professional expertise.
5. Wide-ranging vision and skills, together with cultural literacy as the basis for international exchange.

大学像

Vision

海洋分野において国際的に活躍する産官学のリーダーを輩出する世界最高水準の卓越した大学。

A university of world-leading excellence that produces a large number of leaders in industrial, official, and academic circles, who are active internationally in the maritime field.

大学の研究領域

Areas of study

環境、資源、エネルギーを中心に、これら3領域の複合部分、周辺領域を含めた幅広い研究に取り組む。

Our university is engaged in a broad range of studies, focusing on the areas of environment, resources, and energy, and including their composite and peripheral aspects.



※この図は研究領域を示すもので、組織を示すものではない。
The chart shows the areas of study, but not the organization.

沿革

東京海洋大学は2003年10月に東京商船大学と東京水産大学が統合した大学です。両大学の前身はそれぞれ1875年と1888年に設立されており、本学は140年を超える歴史と伝統を誇っています。東京海洋大学は両大学の伝統と個性・特徴を継承すると共に、時代の要請に応じて、新たな教育研究分野への展開を図り、国内唯一の海洋系大学として、世界最高水準の卓越した教育研究拠点の形成を目指しています。

東京水産大学



東京商船大学



1875 私立三菱商船学校が東京に設立

1882 三菱商船学校は官立となり、東京商船学校と改称

大日本水産会水産伝習所が東京に設立

1888

水産講習所の官制が発令され、農商務省は水産講習所を開設

1897

1925 東京高等商船学校と改称

1945 東京、神戸、清水の三高等商船学校を統合して、高等商船学校を設立

1947

第一水産講習所と改称

国立学校設置法により、第一水産講習所を包括して農林省所管東京水産大学を設置、水産学部が置かれた

1949

1949 商船大学が設置され、高等商船学校及び海務学院を包括することとなった。商船学部が置かれた

1957

1957 東京商船大学と改称

大学院水産学研究所を設置

1964

1974 大学院商船学研究所を設置

2003

東京海洋大学

大学院海洋科学技術研究科
海洋科学部/海洋工学部

2017

海洋資源環境学部を設置
海洋科学部を海洋生命科学部に改称

東京海洋大学ゆかりの著名人

鈴木善幸
第70代内閣総理大臣
水産講習所卒業

高崎達之助
日中貿易(LT貿易)の開始
通商産業大臣
水産講習所卒業

岩崎彌太郎
三菱財閥創業者
三菱商船学校を設立

米窪清亮
初代労働大臣
商船学校卒業

東京海洋大学

品川キャンパス

海洋生命科学部

アドミッションポリシー

海洋生命科学部では、生命科学をはじめとする自然科学、人文・社会科学の深い理解を基盤に、人類社会の持続可能な発展に資するために、海洋を含む水圏に関するグローバルな諸課題に関心を持ち、世界をリードする研究を通して、海洋生物資源の利用、食品の生産・流通、人と海の共生などの分野に意欲的に取り組む学生を求めています。

海洋生物
資源学科

食品生産
科学科

海洋政策
文化学科

学べること

- 水生生物・魚貝類の体のしくみ
- 水生生物の飼育技術
- 生物多様性
- 生物資源
- 資源生態
- バイオテクノロジー
- ゲノム科学

- 食品の物性
- 保存方法
- 冷凍工学
- 微生物の利用
- 食の安心・安全
- 栄養と健康
- 未利用資源
- 食品加工
- 美味しさ

- 海洋政策
- 海洋法
- 海洋産業
- 水産経済
- 沿岸域・海洋管理
- 海洋保全
- 海洋文化
- マリンスポーツ
- 環境教育
- 生命・環境倫理

めざせる仕事

- 国公立及び民間の水産研究機関の研究部門
- 薬品の研究開発部門
- 水族館等の運営・研究部門
- 水産流通部門
- 都道府県水産試験場技術開発部門
- 食品の分析・研究開発部門
- 高校教員(理科、水産)

- 食品の分析・研究開発部門
- 食品の品質・衛生管理部門
- 食品の生産管理部門
- 食品の商品開発部門
- 海洋関連の公的セクター部門
- 公務員
- 高校教員(理科、水産)

- 海洋関連官公庁の政策立案部門
- 水産関連の金融部門
- 水産関連の流通部門
- 海洋関連のコンサルタント
- 海洋関連のシステム開発部門
- 航空・鉄道等運輸部門
- 高校教員(理科、水産)

卒業後の進路

大学院進学	69.4%
水産専攻科進学	1.4%
就職	25.0%
その他	4.2%

大学院進学	63.1%
水産専攻科進学	0.0%
就職	35.4%
その他	1.5%

大学院進学	15.4%
水産専攻科進学	10.2%
就職	66.7%
その他	7.7%

平成30年3月卒業生のデータより

学部・学科 早見表

越中島キャンパス

海洋工学部

アドミッションポリシー

海洋工学部では、人類社会の持続的発展に資するため、海上輸送に関するグローバルな諸課題に関心を持ち、世界をリードする研究を通して、安全な運航、制御システム、省エネルギー技術、ロジスティクスなどについて、国際的な視野に立つ指導的エンジニアとして工学的視点から問題を解決しようとする意欲を持つ人を求めています。

海事システム工学科

海洋電子機械工学科

流通情報工学科

学べること

- 船舶運航
- 運航管理
- 船舶工学
- 情報・通信
- 海上交通システム
- システム工学
- 衛星測位工学
- 海洋気象学
- 海事法規
- 国際法
- 海事英語
- 海上危機管理
- エンジン
- ロボット
- 動力システム
- 制御システム
- 電気・電子機器
- 新材料
- 省エネ技術
- 環境対策技術
- 設計・製造技術
- ロジスティクス
- 物流管理
- 国際物流
- 交通経済
- 流通経営
- 数理情報
- プログラミング

めざせる仕事

- 商船船長・航海士
- 船舶運航管理部門
- 港湾管理部門
- 海事コンサルタント
- 公的セクター海事部門
- 海事代理士
- 海上保険部門
- 造船部門
- 海洋開発部門
- 商船機関長・機関士
- 船内での機関プラント管理、陸上での船舶管理部門
- 電力・エネルギー供給等の社会インフラ管理部門
- 船舶・海洋関連機器等の設計・製造・研究開発部門
- ロジスティクス・プランナー
- 商品の品質管理部門
- 商品の流通管理部門
- 国際貿易の実務部門
- システムエンジニア
- 物流事業改善のコンサルティング

卒業後の進路

大学院進学	9.8%	大学院進学	21.1%	大学院進学	10.4%
乗船実習科進学	43.1%	乗船実習科進学	27.6%	就職	79.2%
就職	45.1%	就職	48.7%	その他	10.4%
その他	2.0%	その他	2.6%		

平成30年3月卒業生のデータより

品川キャンパス

海洋資源環境学部

アドミッションポリシー

海洋資源環境学部では、海洋環境・海洋生物・資源・エネルギーに関するグローバルな諸課題に関心を持ち、環境の保全、海洋や資源の持続的利用、エネルギーの効率的利用などへの取り組みに意欲を持つ学生を求めています。

海洋環境科学科

海洋資源エネルギー学科

学べること

- 気候変動
- 地球温暖化
- 環境保全
- 海流
- 波
- 混合・拡散
- 物質循環
- 海洋生物の分類と生理・生態・生化学
- 生物多様性
- 海洋生態系
- 海洋生物からの有用物質
- 海底資源開発・探査技術
- 再生可能エネルギー
- 自動制御技術
- 国際海洋管理
- 地震活動・津波
- 微生物・バイオマス変換
- 超電導・電気電子デバイス
- 海洋・沿岸構造物
- 水中音響センシング・測位技術
- 化学センシング技術
- 環境保全技術
- 船舶・海上労働安全

めざせる仕事

- 国公立及び民間海洋研究機関の研究部門
- 国家・地方公務員の行政部門
- 環境調査・分析・予測評価部門
- 気象・海況の計測・予測部門
- 食品・水産会社の研究・製造部門
- 水浄化・水処理の会社
- 水族館等の運営・研究部門(学芸員)
- 中学・高校理科教員
- エネルギー・海洋・水産研究機関の研究及び技術開発部門
- 環境調査・分析・予測評価部門
- 船舶関連技術部門及び航海士
- 海底資源探査・開発部門
- 海洋建設・コンサルタント部門
- 中学・高校理科教員
- 博物館学芸員

卒業後の進路

大学院進学	53.8%
水産専攻科進学	15.4%
就職	26.0%
その他	4.8%

海洋資源環境学部の専修となる海洋科学部海洋環境学科平成30年3月卒業生のデータより

法人の運営組織 MANAGEMENT ORGANIZATION OF THE CORPORATION

令和2年5月1日現在 As of May 1, 2020

◆役員会 Board of Directors

氏名 Name	役職名 Title
竹内 俊郎 TAKEUCHI Toshio	学長 President
東海 正 TOKAI Tadashi	理事（教育・国際担当） Executive Director for Education and International Affairs
黒川 久幸 KUROKAWA Hisayuki	理事（産学連携・情報化担当） Executive Director for Industry-academia Liaison and Informatization
工藤 泰三 KUDO Yasumi	理事（経営環境担当） Executive Director for Business Environment
渡辺 善子 WATANABE Yoshiko	理事（ダイバーシティ・男女共同参画担当） Executive Director for Diversity and Gender Equality

◆副学長 Vice President

氏名 Name	担当業務 Work Assignment
堀内 敦 HORIUCHI Atsushi	副学長（総務・財務担当）・事務局長 Vice President for General Affairs and Finance, Director General, Administration Bureau
神田 穰太 KANDA Jota	副学長（研究・大学改革担当）・学術研究院長 Vice President for Research and University Reform, Dean of the Faculty
庄司 るり SHOJI Ruri	副学長（学生支援・広報担当） Vice President for Student Support and Public Relations

◆監事 Auditors

氏名 Name	担当業務 Work Assignment
青山 伸一 AOYAMA Shinichi	財務・会計監査担当（非常勤） Financial Affairs Auditor
久保田 紀久枝 KUBOTA Kikue	法人業務監査担当（非常勤） Corporate Affairs Auditor

◆経営協議会委員 Member of Administrative Council

氏名 Name	役職名 Title
五十嵐 道子 IGARASHI Michiko	科学ジャーナリスト Science Journalist
井手 憲文 IDE Norifumi	成田空港高速鉄道株式会社 代表取締役社長 President and CEO, Narita Airport Rapid Railway Co.Ltd
井上 四郎 INOUE Shiro	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所顧問 Adviser to the President, National Maritime Research Institute
荻上 紘一 OGIUE Koichi	独立行政法人 大学評価・学位授与機構名誉教授 Emeritus Professor, National Institution for Academic Degrees and University Evaluation
武藤 光一 MUTO Koichi	株式会社商船三井 特別顧問 Corporate Adviser, Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.
森 榮 MORI Sakae	三菱マテリアル株式会社 社友 Executive, Mitsubishi Materials Corporation
山本 勝 YAMAMOTO Masaru	一般社団法人 海洋会相談役 Senior Adviser, Kaiyo-Kai
竹内 俊郎 TAKEUCHI Toshio	学長 President
東海 正 TOKAI Tadashi	理事（教育・国際担当） Executive Director for Education and International Affairs
黒川 久幸 KUROKAWA Hisayuki	理事（産学連携・情報化担当） Executive Director for Industry-academia Liaison and Informatization
工藤 泰三 KUDO Yasumi	理事（経営環境担当） Executive Director for Business Environment
渡辺 善子 WATANABE Yoshiko	理事（ダイバーシティ・男女共同参画担当） Executive Director for Diversity and Gender Equality
堀内 敦 HORIUCHI Atsushi	副学長（総務・財務担当）・事務局長 Vice President for General Affairs and Finance, Director General, Administration Bureau

◆教育研究評議会評議員 Member of Education and Research Council

氏名 Name	役職名 Title
竹内 俊郎 TAKEUCHI Toshio	学長 President
東海 正 TOKAI Tadashi	理事（教育・国際担当） Executive Director for Education and International Affairs
黒川 久幸 KUROKAWA Hisayuki	理事（産学連携・情報化担当） Executive Director for Industry-academia Liaison and Informatization
堀内 敦 HORIUCHI Atsushi	副学長（総務・財務担当）・事務局長 Vice President for General Affairs and Finance, Director General, Administration Bureau
神田 穰太 KANDA Jota	副学長（研究・大学改革担当）・学術研究院長 Vice President for Research and University Reform, Dean of the Faculty
庄司 るり SHOJI Ruri	副学長（学生支援・広報担当） Vice President for Student Support and Public Relations
川辺 みどり KAWABE Midori	海洋生命科学部長 Dean, School of Marine Life Science
井関 俊夫 ISEKI Toshio	海洋工学部長・附属図書館長 Dean, School of Marine Technology, Director, University Library
田中 祐志 TANAKA Yuji	海洋資源環境学部長 Dean, School of Marine Resources and Environment
舞田 正志 MAIDA Masashi	大学院海洋科学技術研究科長 Dean, Graduate School of Marine Science and Technology
松川 真吾 MATSUKAWA Shingo	教授（海洋生命科学部担当） Professor, School of Marine Life Science
元田 慎一 MOTODA Shinich	教授（海洋工学部担当） Professor, School of Marine Technology
遠藤 英明 ENDO Hideaki	教授（海洋資源環境学部担当） Professor, School of Marine Resources and Environm

◆学長選考会議委員 Member of Presidential Selection Committee

氏名 Name	役職名 Title
井上 四郎 INOUE Shiro	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所顧問 Senior Adviser to the President, National Maritime Research Institute
荻上 紘一 OGIUE Koichi	独立行政法人 大学評価・学位授与機構名誉教授 Emeritus Professor, National Institution for Academic Degrees and University Evaluation
森 榮 MORI Sakae	三菱マテリアル株式会社 社友 Executive, Mitsubishi Materials Corporation
山本 勝 YAMAMOTO Masaru	一般社団法人 海洋会相談役 Senior Adviser, Kaiyo-Kai
川辺 みどり KAWANABE Midori	海洋生命科学部長 Dean, School of Marine Life Science
井関 俊夫 ISEKI Toshio	海洋工学部長・附属図書館長 Dean, School of Marine Technology, Director, University Library
田中 祐志 TANAKA Yuji	海洋資源環境学部長 Dean, School of Marine Resources and Environment
元田 慎一 MOTODA Shinichi	教育研究評議会評議員 Education and Research Council memebre

役員・職員数 NUMBER OF STAFF

令和2年5月1日現在
As of May 1, 2020

	学長 President		理事 Executive Directors		監事 Auditors		教授 Professor		准教授 Associate Professor		講師 Lecturers		助教 Assistant Professor		助手 Assistant		小計 Subtotal		事務系 職員 Administrative Staff		技術系 職員 Technical Staff		小計 Subtotal		合計 Total	
	1	0	3	1	1	1											5	2					0	0	7	
役員（非常勤含む） Executives	1	0	3	1	1	1											5	2					0	0	7	
海洋生物資源学部門 Department of Marine Biosciences							13		13				6				32	0					0	0	32	
食品生産科学部門 Department of Food Science and Technology							11	1	3	2			4	2			18	5					0	0	23	
海洋政策文化学部門 Department of Marine Policy and Culture							7	2	9	4							16	6					0	0	22	
海事システム工学部門 Department of Maritime Systems Engineering							15	4	7		1		2	1			25	5					0	0	30	
海洋電子機械工学部門 Department of Marine Electronics and Mechanical Engineering							13	1	8	1			5		4		30	2					0	0	32	
流通情報工学部門 Department of Logistics and Information Engineering							11		5	1			2				18	1					0	0	19	
海洋環境科学部門 Department of Ocean Sciences							15	2	11	3			6	1			32	6					0	0	38	
海洋資源エネルギー学部門 Department of Marine Resources and Energy							14		5	3			1	3			20	6					0	0	26	
海洋工学部 School of Marine Technology																	0	0			4		4	0	4	
総合情報基盤センター Information and Network Center													1				1	0			1	1	1	1	3	
保健管理センター Health Service Center							2										0	2			5		0	5	7	
産学・地域連携推進機構 Office of Liaison and Cooperative Research									2					1			2	1					0	0	3	
水圏科学フィールド 教育研究センター Field Science Center							1										1	0			6		6	0	7	
船舶・海洋 オペレーションセンター Center for Marine Research and Operations							4		5				4	1	2		15	1			56	6	56	6	78	
放射性同位元素管理センター Radioisotope Center																	0	0			1		0	1	1	
グローバル教育研究推進機構 Global Education and Research Office							1										1	0					0	0	1	
事務局 Administration Bureau																	0	0	75	65	8	1	83	66	149	
合計 Total	1	0	3	1	1	1	105	12	68	14	1	0	31	9	6	0	216	37	75	65	75	14	150	79	482	
	1		4		2		117		82		1		40		6		253		140		89		229			

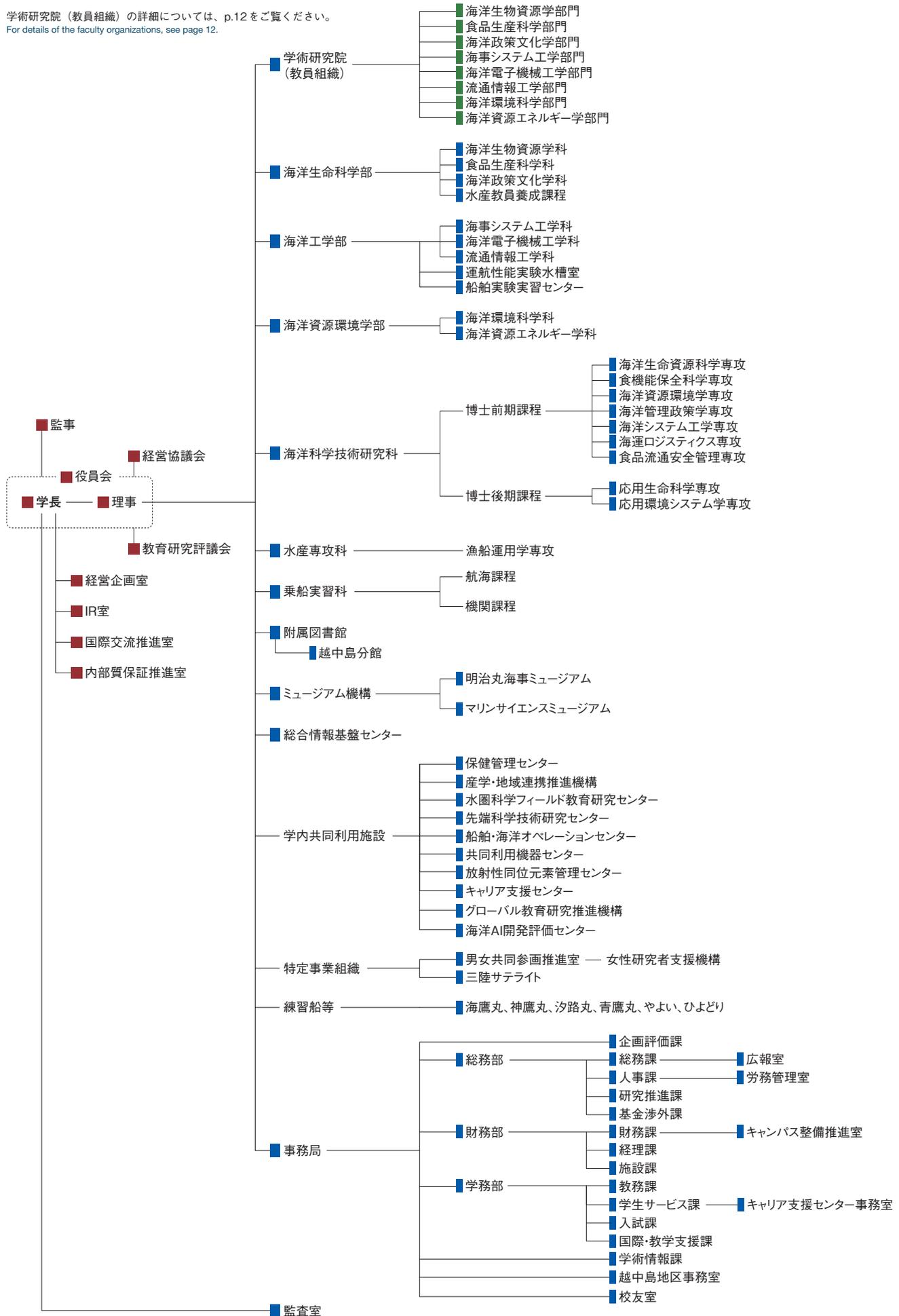
注：各欄左側は男性、右側は女性の数を示す。

Notes: The left-hand column indicates the number of male. The right-hand column indicates the number of female.

機構図 ORGANIZATION

令和2年7月1日現在
As of July, 2020

学術研究院（教員組織）の詳細については、p.12をご覧ください。
For details of the faculty organizations, see page 12.



施設位置図 Addresses of Facilities



番号 Number	区分 Classification	名称 Name	所在地 Address	電話番号 Telephone	
①	品川地区 Shinagawa	事務局 Administration Bureau	〒108-8477 東京都港区港南4-5-7 4-5-7 Konan, Minato-ku, Tokyo 108-8477	03-5463-0400 (代表) +81-3-5463-0400	
		海洋生命科学部 School of Marine Life Science			
		海洋資源環境学部 School of Marine Resources and Environment			
		大学院海洋科学技術研究科 Graduate School of Marine Science and Technology			
		水産専攻科 Advanced Training Course for Maritime Science and Technology			
		附属図書館 University Library			
		マリンサイエンスミュージアム Museum of Marine Science			
		保健管理センター Health Service Center			
		産学・地域連携推進機構 Office of Liaison and Cooperative Research			
		総合情報基盤センター Information and Network Center			
		先端科学技術研究センター Research Center for Advanced Science and Technology			
		船舶・海洋オペレーションセンター Center for Marine Research and Operations			
		国際交流会館 International House			〒108-0075 東京都港区港南4-5-7
学生寮(朋鷹寮) Student Dormitory (Hoyo-ryo)	4-5-7 Konan, Minato-ku, Tokyo 108-0075	03-5463-0438			
②	越中島地区 Etchujima	越中島地区事務室 Etchujima Campus Administration Section	〒135-8533 東京都江東区越中島2-1-6 2-1-6 Etchujima, Koto-ku, Tokyo 135-8533	03-5245-7300 (代表) +81-3-5245-7300	
		海洋工学部 School of Marine Technology			
		大学院海洋科学技術研究科 Graduate School of Marine Science and Technology			
		乗船実習科 Advanced Onboard Training Course for Mercantile Marine			
		附属図書館越中島分館 University Library, Etchujima Branch			
		明治丸海事ミュージアム Meiji-maru Maritime Museum			
		保健管理センター Health Service Center			
		産学・地域連携推進機構 Office of Liaison and Cooperative Research			
		総合情報基盤センター Information and Network Center			
		先端科学技術研究センター Research Center for Advanced Science and Technology			
国際交流会館 International House	〒135-0044 東京都江東区越中島2-2-27	—			
学生寮(海王寮) Student Dormitory (Kaio-ryo)	2-2-27 Etchujima, Koto-ku, Tokyo 135-0044	03-5245-7352			
③	吉田 Yoshida	吉田ステーション Yoshida Station	〒421-0302 静岡県榛原郡吉田町川尻1581 1581 Kawajiri, Yoshida-cho, Haibara-gun, Shizuoka 421-0302	0548-32-5848 +81-548-32-5848	
④	大泉 Oizumi	大泉ステーション Oizumi Station	〒409-1502 山梨県北杜市大泉町谷戸5681 5681 Yato, Oizumi-cho, Hokuto-shi, Yamanashi 409-1502	0551-38-2015 +81-551-38-2015	
⑤	館山 Tateyama	水圏科学 フィールド 教育研究センター Field Science Center	館山ステーション Tateyama Station (Banda)	〒294-0308 千葉県館山市坂田670 670, Banda Tateyama-shi, Chiba 294-0308	0470-29-1144 +81-470-29-1144
			館山ステーション館山湾内支所 Tateyama Branch	〒294-0036 千葉県館山市館山96 96 Tateyama, Tateyama-shi, Chiba 294-0036	0470-22-0301 +81-470-22-0301
⑥	富浦 Tomiura	富浦ステーション Tomiura Station	〒299-2404 千葉県南房総市富浦町多田良851-1 851-1 Tatara, Tomiura-machi, Minamiboso-shi, Chiba 299-2404	0470-33-2094 +81-470-33-2094	
⑦	清水 Shimizu	清水ステーション Shimizu Station	〒424-0902 静岡県静岡市清水区折戸4-1-30 4-1-30 Orido, Shimizu-ku, Shizuoka-shi, Shizuoka 424-0902	054-334-0457 +81-54-334-0457	
⑧	戸田 Toda	戸田艇庫 Toda Boathouse	〒335-0024 埼玉県戸田市戸田公園2447 2447 Toda-Koen, Toda-shi, Saitama 335-0024	—	
⑨	サテライト Satellite	三陸サテライト Sanriku Satellite Office	〒988-0037 宮城県気仙沼市魚市場前8-25 気仙沼市水産振興センター内(新鮮市場CD棟2階) In the Kesennuma City Fisheries Promotion Center (2nd floor, Shinsen Ichiba CD Building), 8-25 Uoichiba-mae, Kesennuma shi, Miyagi 988-0037	0226-29-6719 +81-226-29-6719	

練習船等 TRAINING AND RESEARCH VESSELS

※総トン数の()内は国際トン数
 ※ The figure in parentheses in the "Gross tonnage" field indicates international tonnage.

海鷹丸 Umitaka-maru

太平洋、インド洋、南氷洋を含む世界中の海を行動海域とし、専攻科学生に高度な海上技術者教育を行い、調査研究にも従事します。また学部学生には乗船漁業実習を行い、海技士資格取得の教育を行っています。

The Umitaka-maru travels to all oceans of the world including the Pacific, Indian and Antarctic Ocean, and provides students of the course advanced marine technician education, and also engages in investigation and research. It also provides students in the School of Marine Science education for a marine technician license by conducting on board fisheries training.

【主機関】単動4サイクルトランクピストン型直接噴射式ディーゼル機関 4,489 kW × 520 rpm、可変ピッチプロペラ直径 3.8 m × 翼数 4
 【Main Engine】4 cycled middle speed diesel engine 4,489 kW × 520 rpm

総トン数 Gross tonnage	1,886 tons (3391 tons)	長さ Length	93.0 m
幅 Breadth	14.90 m	深さ Depth	8.90 m
速力 Average speed	17.4 knots	定員数 Complement	107 (職員47、学生60) 107 (47 crew, 60 students)

平成 12 年 6 月 30 日竣工(三井造船(株)玉野事業所)
 June. 30. 2000 Tamano works of Mitsui Engineering & Shipbuilding Co., Ltd.



神鷹丸 Shinyo-maru

日本周辺から太平洋赤道海域までを航海し、水産・海洋に関する実習、海技教育などに取り組み、高度な海上技術者を養成しています。海中はもちろんのこと海底下までも調査できる最新鋭の観測装置を搭載しています。

The Shinyo-maru sails from the coastal areas of Japan to the equatorial region of the Pacific Ocean, and provide hands-on training and study of fisheries, oceanology and marine engineering to foster experts in advanced marine technology. It has many cutting-edge observational equipment, not only for oceanographic observation but also for seafloor exploration.

【推進・発電システム】推進電動機 800/237 kW × 885/590 rpm 2基、主発電機 750 kW 3基
 【Propulsion and generation system】Propulsion motor 800 kW 2 sets, Main generator 750 kW 3 sets

総トン数 Gross tonnage	986 tons (1,343 tons)	長さ Length	64.55 m
幅 Breadth	12.10 m	深さ Depth	7.00 m
速力 Average speed	12 knots	定員数 Complement	76 (職員32、学生44) 76 (32 crew, 44 students)

平成 28 年 3 月 31 日竣工(三菱重工業(株)下関造船所)
 Mar. 31. 2016 Shimonoseki Shipyard & Machinery Works of Mitsubishi Heavy Industries, Ltd.



汐路丸 Shioji-maru

海、陸、空の複合一貫輸送という物流システムの中で、道路や空港の混雑、過密化が激しい現在、海上輸送は重要視されており、安全で効率的な新しい船舶の運航形態を学習するために、最新機器を備えた船舶による実験・実習を行っています。

Now that roads and airports are terribly congested, greater importance is being placed on marine transportation with integrated freight transportation or logistics systems using marine, land and air routes. The Shioji-maru, with up-to-date equipment, is used to implement experiments and training projects for students to learn the new, safe and efficient operation technology of ships.

【主機関】6DLM-26SL型(Type)4サイクル中速ディーゼル機関 1,030 kW × 700 rpm
 【Main Engine】6DLM-26SL Type 4cycled middle speed diesel engine 1,030 kW × 700 rpm

総トン数 Gross tonnage	425 tons	長さ Length	49.93 m
幅 Breadth	10.00 m	深さ Depth	3.8 m
速力 Average speed	14.12 knots	定員数 Complement	62 (職員18、学生44) 62 (18 crew, 44 students)

昭和 62 年 2 月 10 日竣工(石川島播磨重工業(株)東京第一工場)
 Feb. 10, 1987 The 1st Tokyo Factory of Ishikawajima Harima Heavy Industry Co., Ltd.



青鷹丸 Seiyō-maru

東京湾、相模湾、黒潮流域までの日本近海を行動海域とし、海技士資格取得のための免許講習・乗船漁業実習を行うとともに、海洋学実習及び調査・研究航海を行っています。

The Seiyō-maru travels to Tokyo Bay, Sagami Bay and Japanese waters up the Kuroshio Current to provide a license class for marine technicians and practical onboard training and to conduct investigation and research voyages.

【主機関】1,050ps 1基 4サイクル中速ディーゼル機関
 【Main Engine】4 cycled middle speed diesel engine 1,050ps × 1

総トン数 Gross tonnage	170 tons (272 tons)	長さ Length	35.5 m
幅 Breadth	7.0 m	深さ Depth	3.4 m
速力 Average speed	11.5 knots	定員数 Complement	36 (職員16、学生20) 36 (16 crew, 20 students)

昭和 62 年 10 月 31 日竣工(株)三保造船所
 Oct. 31, 1987 Miho Shipyard, Ltd.



やよい Yayoi

巡航などの支援や実験実習に使用されています。また、衛星通信を介して大学とのコンピュータネットワークが構築できるため、航海・機関や環境に関する航海中の詳細なデータを基に緻密な実験が可能です。



The Yayoi is used to assist the projects of sailing training, cutter cruising and onboard experiments for students. The computer network established between the ship and the University via communication satellite permits accurate experiments to be conducted on navigation, the engines and environment by using the data collected during the voyage.

【主機関】 6 Kx-GT × 2 (Type) 高速船用ディーゼル機関 675 ps × 2,130 rpm × 2 基
 [Main Engine] 6 Kx-GT × 2 Type High speed diesel engine 675 ps × 2,130 rpm × 2

総トン数 Gross tonnage	19 tons	長さ Length	17.80 m
幅 Breadth	4.28 m	深さ Depth	1.49 m
速力 Average speed	23.0 knots	定員数 Complement	57 (職員2、学生55) 57 (2 crew, 55 students)

平成13年3月16日竣工(三井造船(株))
 Mar. 4, 2001 Mitsui Engineering&Shipbuilding Co.,Ltd.

ひよどり Hiyodori

実習艇として水産総合実習や漁業実習などに使用されています。また、東京湾内の調査・研究にも利用されています。



The Hiyodori is a training boat for training in fisheries and conduct surveys and research in Tokyo Bay.

【主機関】 350ps 1基 4サイクルディーゼル機関
 [Main Engine] 4 cycled diesel engine 350ps × 1

総トン数 Gross tonnage	19 tons	長さ Length	16.55 m
幅 Breadth	4.5 m	深さ Depth	1.55 m
速力 Average speed	10.5 knots	定員数 Complement	40 (職員2、学生38) 40 (2 crew, 38 students)

平成3年3月28日竣工(相模造船鉄工(株))
 Mar. 28, 1991 Sagami Shipbuilding, Ltd.

練習船を活用した研究活動の推進 PROMOTION OF RESEARCH ACTIVITIES UTILIZING TRAINING SHIPS

海鷹丸、汐路丸等の練習船を活用し、国際プロジェクトへの参画及び国内外の研究機関との共同観測などに取り組んでいます。

Tokyo University of Marine Science and Technology is participating in international projects as well as joint observation projects with domestic and foreign research institutions that make use of the training ships "Umitaka-maru," "Shioji-maru" and others.

◆研究活動の例 Examples of Research Activities

「海鷹丸」は、情報・システム研究機構国立極地研究所と共同公募申請・採択された文部科学省事業「南極地域観測事業 基本観測」によりオーストラリア南方海域の東経110度線に沿った海洋観測を行っています。このほか、環境省からの研究費を獲得して九州大学との共同によりプラスチック微細片の浮遊や漂流ごみ・海底ごみに関する調査等を実施しています。

「汐路丸」を用いて「自律型海上輸送システムの研究」に関する実践実験を民間企業等7社と共同研究しているほか、OZT (Obstacle Zone by Target) に関する研究を民間企業等4社と共同研究しています。

このほか、「神鷹丸」においては、海底地質構造・資源調査や漂流ごみ・海底ごみの調査を、また「青鷹丸」においては、東京湾の水質とプランクトン群集及び水塊構造の動態に関する長期モニタリング(昭和55年頃からほぼ毎月実施)、相模湾での延縄試験操業、潮汐周期と魚群分布の関係に関する研究などを行っています。

The Umitaka-maru is employed in various marine research projects. The main one is the "Antarctic Research Program: Fundamental Observations," a joint project with the National Institute of Polar Research (overseen by the Research Organization of Information and Systems) funded by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. To achieve the goals of this project, we use the vessel to conduct oceanographic surveys in the area to the south of Australia along 110°E line. Under other grant project hosted by the Ministry of the Environment, we carry out research on microplastics debris and other types of floating and sunk marine debris in cooperation with Kyushu University.

We use the Shioji-maru in collaboration with seven private corporations to carry out practical experiments for the "Study of the Autonomous Marine Transportation System." We also utilize the vessel for the Obstacle Zone by Target (OZT) study in cooperation with four private companies.

The Shinyo-maru is engaged in conducting observations of the geological structures and resources on the sea floor and surveys of floating and sunken debris. The Seiyō-maru is assigned to a number of tasks, including long-term monitoring surveys (ongoing since around 1980, generally on a monthly basis) on water quality and plankton communities, water mass structures and dynamics in Tokyo Bay, and trial longline fishing operations in Sagami Bay, as well as a study on the influence of tidal cycles on fish distribution.



DATAでみる東京海洋大学

東京海洋大学は、国内唯一の海洋系大学として、「海を知り、海を守り、海を利用する」をモットーに教育研究を展開しています。

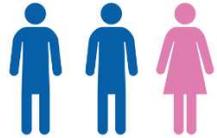
東京海洋大学の特色ある項目を数字にして表してみました。

これらの数字から、これまで知らなかった海洋大が見えてくるかもしれません。

学生数

(学部・大学院・水産専攻科・乗船実習科・研究生等)

学生総数 **2,777** 人



女子学生 **33** %

約 **3** 人に **1** 人

出典「学校基本調査」R1.5.1 現在

[もっと詳しく見る](#)

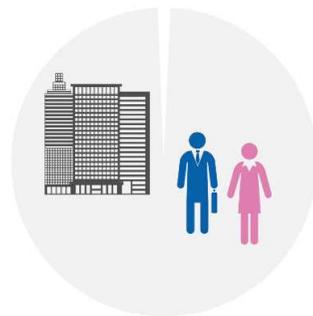
就職率

大学全体で就職をバックアップ。
きめ細かい就職支援

97.6 %

東京海洋大学まとめ H30年度就職率 (R1.5.1 現在)
就職希望者の就職率

[もっと詳しく見る](#)



教員一人当たりの学生数 (学部)

8.5 人



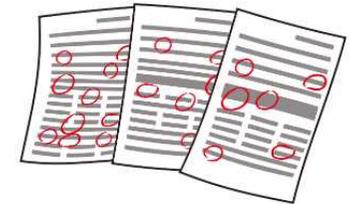
少人数教育による丁寧な指導

出典「教育研究評価に使用するデータ」
R1.5.1 現在

TOEICスコア

海洋科学部4年生の全員が

600 点以上



東京海洋大学まとめH31.3 未現在

[もっと詳しく見る](#)

日本人学生の海外派遣者数

独自のプログラム「海外探検隊」

143 人/年

東京海洋大学まとめ H30年度実績

[もっと詳しく見る](#)

留学生数
240 人



25%が留学生 (大学院)

出典「教育研究評価に使用するデータ」
R1.5.1 現在

[もっと詳しく見る](#)

国際交流協定校数

102 機関

31 国・地域と
協定締結



出典「東京海洋大学概要」R1.5.1 現在

[もっと詳しく見る](#)

共同研究受入件数



185 件/年

教員一人当たり0.74件

全国立大学中7位

出典「産学連携等実施状況調査」H30年度実績

[もっと詳しく見る](#)

特許保有件数



152 件

国内 120 件

外国 32 件

教員一人当たり0.6件

全国立大学中23位

出典「産学連携等実施状況調査」H30年度実績

[もっと詳しく見る](#)

社会人学生数 (大学院)

博士前期課程の社会人学生比率は3.5%

同分野（理工農系）の大学内で高水準

62 人



出典「学校基本調査」R1.5.1 現在
参考：[食品流通安全管理専攻](#)

練習船等保有数

6 隻



海鷹丸は南極を含め
世界中を航海

大学・大学校の中では最多



出典「東京海洋大学概要」R1.5.1 現在

[もっと詳しく見る](#)

施設貸出件数

1,387 件/年

都心に近い品川・越中島という好立地。
魅力ある建物等からドラマ等のロケ貸出も多い



東京海洋大学まとめ H30年度実績

ビジョン 2027 ～海洋の未来を拓くために～

東京海洋大学長
竹内俊郎

はじめに

東京海洋大学は2003年10月、東京商船大学と東京水産大学が統合して誕生した、海洋・海事・水産分野の教育・研究を担うわが国唯一の海洋系総合大学である。両大学の前身は、ともに100年を超える長い歴史を持ち、本学はその伝統と個性・特徴を継承するとともに、時代の要請に応じて、新たな教育研究分野への展開を図り、有為な人材を世に送り出してきた。今般、統合により海洋に関する総合的な「科学と技術(Science and Technology)」の大学として生まれ変わった。

我が国の海洋基本法は、「海洋の平和的かつ積極的な開発・利用と海洋環境の保全との調和を図る新たな海洋国家の実現を目指す」としている。今日、アジア・太平洋地域においては法に基づく海洋秩序の確立が求められ、また東日本大震災を踏まえたエネルギー戦略の見直しの過程で、海洋エネルギー・鉱物資源開発等への期待が高まっている。このような中で本学は、海洋国家としての日本にとって益々重要となる海洋に関する学術諸分野の教育・研究の拠点となり、その水準と独創性を持って国内外で高い評価を受ける大学へと進化発展し、明日の海洋分野を担い新たな産業を創造する人材を育成しなければならない。海洋の未来を拓くトップランナーとしてその実現を図るため、中長期的な方向性の共有を目指した「ビジョン 2027～海洋の未来を拓くために～」を策定したものである。

(平成 27(2015)年 4 月 3 日 骨子公表)

(平成 27(2015)年 10 月 14 日 公表)

(平成 31(2019)年 4 月 1 日 アクションプラン更新)

ビジョン2027 ～海洋の未来を拓くために～

教 育

国際的な基準を満たす質の高い教育を保証するカリキュラムを組み立て、海洋分野で世界をリードする独自の教育プログラムの構築を図るとともに、国内外の海洋関連機関との連携を行いながら、世界最高水準の教育を実施し、産官学のリーダーを輩出する。

研 究

科学技術の未来像を海洋分野で具現化する中心を担いつつ、海洋・海事・水産各分野におけるトップクラスの研究および産業界と緊密に連携した実学重視の研究を行う。

国際化

海事・水産分野が我が国の近代化過程において最先端の国際性を有してきた伝統に立脚し、グローバル時代にふさわしい国際性豊かなキャンパスを創造する。

社会・地域連携

本学における教育・研究の成果をもって、我が国および世界の地域社会や海洋関連産業界との連携を強化し、諸課題の解決や産業振興に貢献する。

管理・運営

学長のリーダーシップの下、効率的・合理的な管理・運営が行われるユニバーシティ・ガバナンスを実現する。また、多様な外部研究資金はもちろん、新しい時代の国立大学法人にふさわしい多様な資金を確保し、無駄のない財務運営を通して、学生の勉学や課外活動等に十分な施設と環境を整備する。一方、教職員に対しては、教育・研究・社会貢献・管理運営に邁進できるよう、業績評価と能力評価、並びにそれらを適切に反映する給与体系を構築する。



ビジョン2027の詳細を是非Webから御覧ください

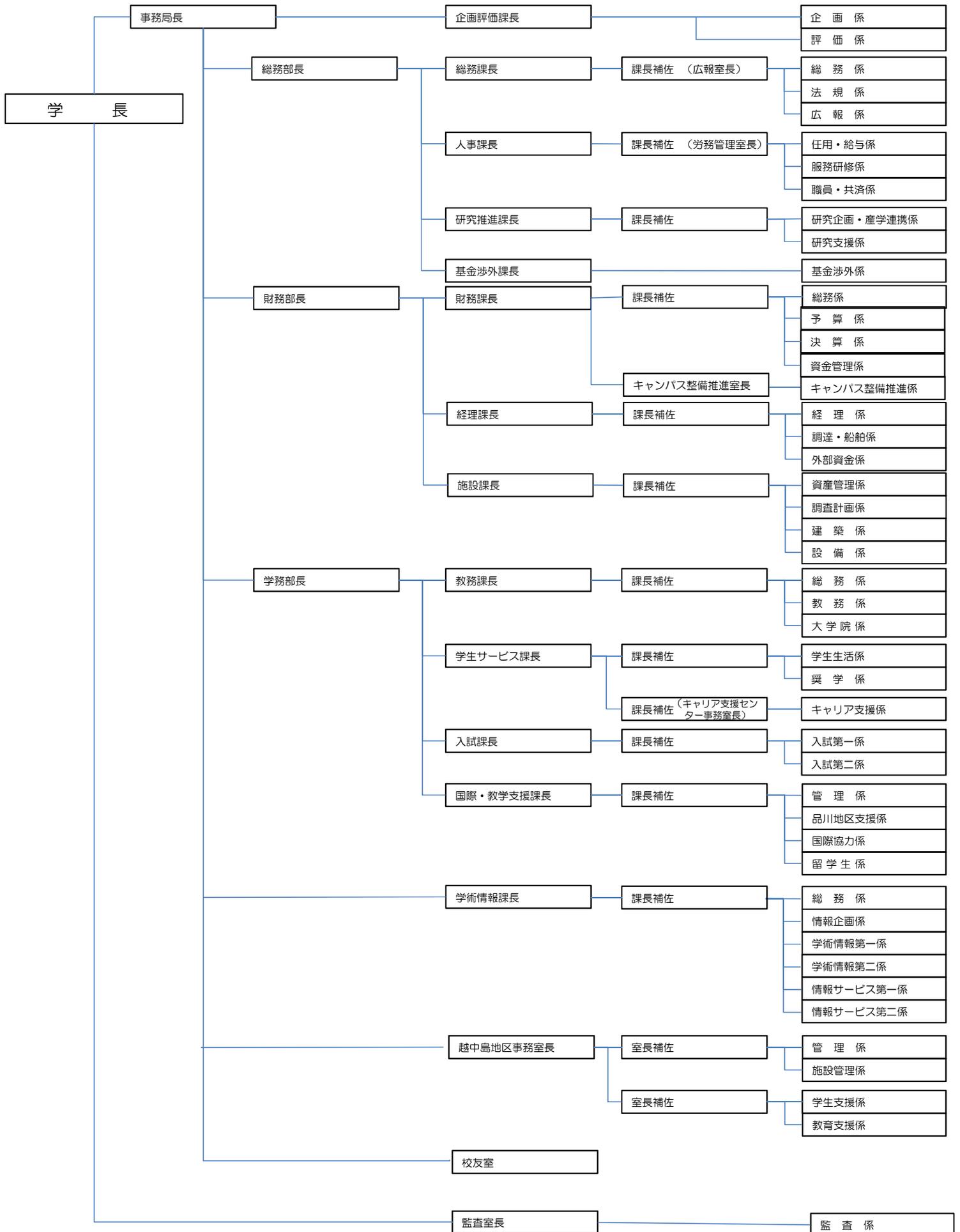
【QRコード】



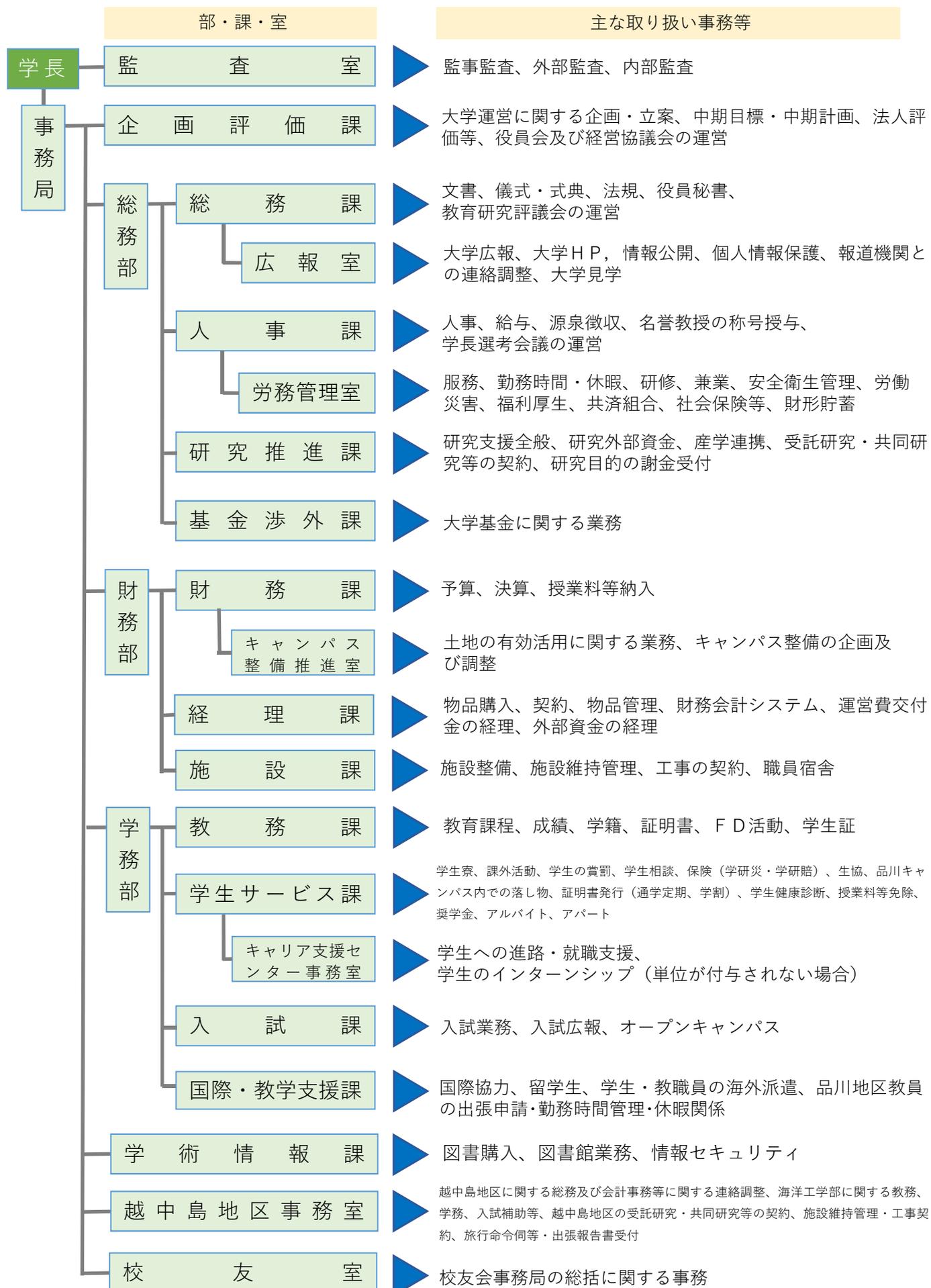
URL : <https://www.kaiyodai.ac.jp/overview/vision/>

東京海洋大学事務組織図

R2.7.1現在



事務組織業務概要



給与・勤務条件・福利厚生

初任給： 大学卒業 218,640 円
修士修了 234,600 円
博士修了 253,560 円
(地域手当 20%を含む。職歴の有無等によって異なります)

諸手当： 賞与 (年間 4.5 月分 (令和元年度実績))
通勤手当 (月額 55,000 円まで)
住居手当 (月額 28,000 円まで)
扶養手当 他

勤務地： 品川キャンパス (港区) 越中島キャンパス (江東区)

勤務時間：原則 8 時 30 分～17 時 15 分

休 日： 土・日曜日・祝日・年末年始

休 暇： 年次有給休暇 (年間 20 日 (初年度は採用された月によって異なります))
特別休暇 (リフレッシュ休暇・夏季一斉休業・結婚・出産等)
病気休暇

休 業： 育児休業 (満 3 歳まで)
介護休業 自己啓発休業 配偶者同行休業



宿 舎： 越中島キャンパスに独身用・世帯用宿舍あり
(入居については空き状況によります)



研 修： 新規採用者に対しては、毎年他の 3 機関とともに「事務系初任職員研修」を実施しています。また、国立大学協会や本学が独自に企画・実施する職位職能内容別研修への参加や、放送大学授業科目に対する履修支援なども行います。他に本学の教育研究施設を視察する「教育研究施設視察等職員研修」等も行っており、本学を幅広く理解することができます。



若手職員の職場でのスケジュール

- 若手職員①（採用3年目）
採用後、総務部人事課に配属、現職

【1日のタイムスケジュール】

時間	内容	説明
8:30	出勤	メールチェック及び1日のスケジュール把握
9:00	問合せ等対応	勤務時間や休暇、兼業等の問い合わせ対応
12:00	昼食	生協食堂にて昼食
13:00	資料作成	研修の案内を作成、通知
16:00	問合せ等対応	育児休業の取得に関する問い合わせ対応
17:15	退勤	翌日のスケジュールを確認した後退勤

- 若手職員②（採用5年目）
採用後、現学務部国際・教学支援課に配属。その後総務部研究推進課に異動、現職

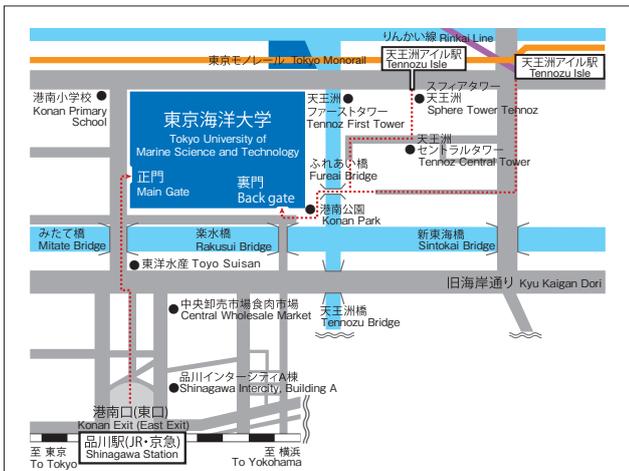
【1日のタイムスケジュール】

時間	内容	説明
8:30	出勤	メールチェック。簡単な問い合わせ等、返信できるものは返信しておく。
9:30	表敬訪問 対応	係長と海外の協定校からのお客様の受け入れ準備。 会談中は内容をメモしたり、写真撮りを行います。
12:00	昼食	生協食堂で同期の職員とお昼
13:00	問い合わせ対応	海外出張や外国人研究者受入の手続きに関する問い合わせに回答。
～	受託研究庶務	国際共同研究に関する受託研究・事業の契約や実績報告書類の作成等
17:15	退勤	翌日のスケジュールを確認した後、退勤





交通案内 CAMPUS LOCATIONS

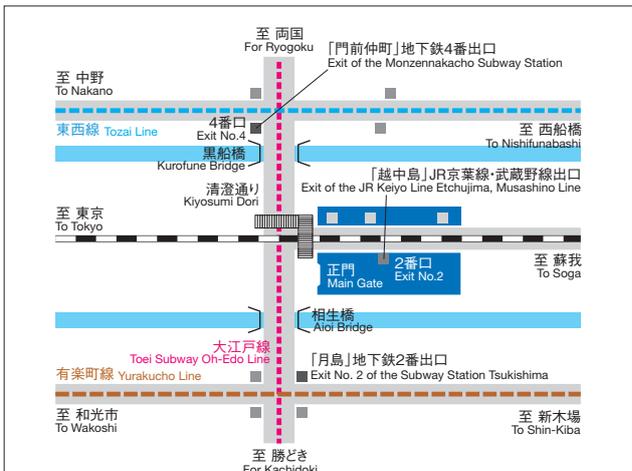


品川キャンパス (本部・海洋生命科学部・海洋資源環境学部等)

JR線、東海道新幹線及び
京浜急行線「品川駅」港南口(東口)より正門まで徒歩10分
東京モノレール「天王洲アイランド」からふれあい橋をわたり正門まで徒歩15分
りんかい線「天王洲アイランド」からふれあい橋をわたり正門まで徒歩20分

SHINAGAWA CAMPUS
(HEADQUARTERS, SCHOOL OF MARINE LIFE SCIENCE, SCHOOL OF MARINE RESOURCES AND ENVIRONMENT)

10 minutes' walk from Konan Exit (or East Exit) "Shinagawa Station" on the JR Line, Tokaido Shinkansen and Keihin Express Line to the main gate of the Campus
15 minutes' walk from "Tennozu Isle Station" on the Tokyo Monorail to the main gate of the Campus via Fureai Bridge
20 minutes' walk from "Tennozu Isle Station" on Rinkai Line to the main gate of the Campus via Fureai Bridge



越中島キャンパス (海洋工学部等)

JR 京葉線・武蔵野線「越中島駅」(各駅停車のみ) 2番出口徒歩2分

地下鉄東西線、大江戸線「門前仲町駅」4番出口徒歩10分

地下鉄有楽町線、大江戸線「月島駅」2番出口徒歩10分

ETCHUJIMA CAMPUS
(SCHOOL OF MARINE TECHNOLOGY)

Campus is 2 minutes' walk from Exit No. 2 at Etchujima Station on the JR Keiyo Line and Musashino Line (only by local trains)

10 minutes' walk from Exit No. 4, "Monzennakacho Station" on the subway Tozai Line and Oh-Edo Line to the Campus

10 minutes' walk from Exit No. 2, "Tsukishima Station" on the subway Yurakucho Line and Oh-Edo Line to the Campus